



探し、問合せるところからスタートしました。まずは、施設の状況を見るために歯科医師と衛生士の2名で事前訪問をして下さり、その翌月から往診がスタートしました。最初は緊張していた仲間も今ではスムーズに診ていただく事ができています。歯のクリーニングが苦手な仲間にも、歯科医師の先生はとても優しく、「怖くないですよ」「今日はクリーニングして、歯が凄く綺麗になりましたよ」など一人ひとり丁寧に声を掛けて下さり、治療中も暖かい空気が流れます。つい先日、虫歯で治療が必要な仲間がいたため、依頼し訪問して下さいだったので、その仲間は拒否が強く、診察を受ける事は出来ませんでした。すると、衛生士の方と先生が、まずは顔を覚えてもらうところからスタートしよう、2人でユニットまで行き仲間に声を掛けて下さいました。しかし表情は硬く、その日

は診察を受けることが出来なかったのですが、その次の訪問の際には、全く拒否することなく口を開けることができました『まずは挨拶から』と、配慮して下さいたことが大きかったのかもしれないと感じました。

仲間たちの暮らしの中で チームでの気づき

仲間たちの健康を守るため、はれの看護師の役割として、薬の管理、体重の変化の把握はもちろんですが、それぞれの暮らしを大切にしたいと考えています。例えば、夜眠りの浅い仲間がいたら、寝付けない原因を考えて、室温や、就寝時の衣類はどうか？また、その日の活動の様子や、最近の出来事など担当職員と情報共有し改善できる方法を探っていきたいと思います。排便のコントロールが困難な仲間は、栄養士に相談し食物繊維を増やすことや食形態についての意見をもたします。服薬が必要な時もありますが、まずは服薬に頼らず、仲間の暮らしに寄り添った改善方法を考えます。

そのためには、仲間たちの近くにいる事が一番大切なことです。時には、看護師の視点よりも、仲間の側にいる支援員の皆さんが気づくことが沢山あります。医療的な考え方に偏ることなく、仲間たちをチームで支え

ることを常に意識しています。以前、厨房のパート職員が「○○さん今日は笑顔でいつもより元気が良いですね」と気づいてくれたことがありました。その仲間は、その日久々の帰省で朝から楽しみにしていました。そのことを伝えると、「だから嬉しそうなのだね!」と言って下さり、そんな風に支援員以外の職員も、仲間のちょっとした変化に気づくことは、安心して暮らすためにとても大切です。

私自身も心掛けていることは、仲間たちの『顔色』を見ることです。一般的に健康状態の把握というと主に、体温・呼吸・血圧・脈拍です。それらも大切なことですが、そういった数字には表れない変化を見逃さないようにしています。自分が意識してみる『顔色』というのは、ただ肌

おひさま通信

直接処遇以外の 職員の視点

～看護師の思い～

はれでは現在39名の仲間たちが暮らしています。健康な暮らしを守るために、はれの看護師として多くの役割があります。

薬のこと

現在毎日薬を服用している仲間は39名中、30名です。朝食後、昼食後、夕食後、就寝前の、1日4回服用、また薬の効能により空腹時に服用することが必要な仲間もいます。全員の仲間たちの薬の服用時に看護師が立ち会うことは出来ませんので、毎日の服用の介助にあたるのは現場職員の皆さんです。服用時にミスが起

こらないように、支援員の皆さんには必ず『声出し確認』と『服用時の複数職員での確認』の徹底をお願いしています。服用時は、朝と夕の飲み間違えや、服用する仲間の名前を間違えること、錠剤の数の間違えなど、色々なリスクが潜んでいます。【○○さん】 ○月○日 夕食後の薬



を服用します」と、声に出し、仲間の口の中に入れることで、服用介助にあたる職員と、同じ現場にいる職員の複数名でミス防止を意識します。また、服用介助にあたる職員には、その仲間がどんな薬を服用しているのか意識をしてほしいと伝えています。例えば、てんかん薬なのか、血圧を下げる薬なのかなど、どんな作用があるかを知っておくことはとても大切だと思っています。

通院のこと

4年前の開所時は、ほとんどの仲間の定期通院はご家族にお願いしていましたが、家族の高齢化や、急な入院等で、はれの職員が通院の付き添いをする件数が増えました。その中で、主治医と職員が顔見知りとなり、仲間たちの暮らしの様子や体調の変化を伝えることを大切に行っています。診察の際は体調面だけでなく、日中の活動の事や、その仲間の興味を持つている事なども伝え、仲間の色々

な面を知って頂けるように心がけています。はれでは、てんかん薬を服用している仲間が多くいますが、薬の種類によっては処方上限が30日分と決められているものがあり、その場合月に1回は通院の必要があります。待ち時間が苦手な仲間も多い為、職員のみで代理受診することも増えています。その際職員は、仲間たちの代弁者です。正しく主治医に様子を伝えるためにも些細な体調の変化、睡眠の様子など普段から見落とさないことが大切です。

埼玉協同病院のご理解・健康診断

はれのすぐ近くには埼玉協同病院があり、仲間の受診で大変お世話になっていきます。年に1度の仲間たちの健康診断も、協同病院の健康増進センターで受診しています。検査が苦手な仲間も多くいますが、センターの職員の方たちは仲間たちの事をよく覚えていて下さり、【○○さん、今年の検査はスムーズだね】【○○さんは、この検査を先にやりましょう!】など、仲間の動きに合わせて声を掛けて下さいます。待ち時間に大きな声を出してしまう仲間もいますが、どの職員の方も暖かく見守って下さいます。施設への出張で集団検診を受ける方法もありますが、健康センターに行き受診することは、仲間た



歯科往診の様子

はれでは2022年6月より、月に1回歯科医師に訪問して頂き歯周病治療や、歯石除去を行っています。川口市内で往診を行っている歯科を



の血色やチアノーゼが無いのか、ではなく、挨拶をした時の反応や、表情の変化、声のトーンなど沢山のサインを見逃さないようにします。日々の些細な変化が、体調に影響することが多くあるためです。気温の変化が激しい時は、てんかんの発作が出やすい仲間がいるため、表情を注意深くみています。普段と違う様子がないかを感じることが大切なポイントです。

仲間がいつもより元気がない時は、外的な要因だけでなく気持ちの変化に寄り添います。家族の急な体調不良や入院で帰省日が変わった時などは、調子を崩す仲間が多いため、担当の職員を軸にその仲間が安心してはれで暮らせるにはどのような取り組みができるかを話し合っています。

はれでは今年還暦を迎える仲間、また、筋力低下により、開所時よりも歩行が不安定になった仲間もいます。今後、仲間たちの高齢化により、リハビリの強化は必要ですし、医療的ケアを要する場面も出てくると思います。今後も仲間たちの変化を見落とさないようにし、チームとしての視点をもち、はれ職員全員と協力しながら仲間たちの健康と安心できる暮らしを支えていきたいと思